学び合い社会人スクール「SEL」

SEL
Social
Empowerment
League

※SELスクールでは、VUCA時代の中、人が「自分らしく」生きるために必要な「学び続ける」姿勢と「自己理解」、「自己組織化」を通して、学んだことを自身の仕事や社会に役立てる方法やスキルを学んでいただきます。

「自己組織化」とは、他者との協働に関わるスキルのことです。何かやりたいこと、成し遂げたいことがあっても、自分一人でできることは本当に少ないですよね。協力者を見つけて、共感して手伝ってもらわなければなりません。当たり前のようでいてなかなかできない、プロジェクトのメンバーを募って組織し、実現させていけるスキルの付け方を学ぶことを「自己組織化」と言っています。

―― 山本さんのお話の中で、キャリア教育コーディネーターが学校や企業人といったパートナーとの関係を作りつつ、課題の認識と解決策の立案をしていく点、そして社会人スクールでは職場とは違う機会で自分のキャリアを磨く場の大切さを感じました。TEEPもまさに同様のスキルを学ぶ機会を得られる場でありたいと考えています。

実務家教員の経験を社会へ

―― 山本さんから見た、実務家教員が担っていくべき役割、社会課題解決への期待について教えていただけますか。

一貫してアカデミックの世界で研究されてきた先生方による教育活動は、今後も変わることなく必要だと思います。同時に、これだけ変化が大きく価値観が多様になってきた世の中においては、文系・理系を問わずどの分野でも実務家が現場の知見を伝えることが不可欠になっていると考えます。

さらに、実務家教員は企業の実情を伝えるだけにとどまって欲しくはないとも思います。学生たちと共に学びあう中で、実務家教員自身が得るものも多いでしょう。それをもう一度、どう社会に還元していくかを考えて実現していただきたいですね。

私自身も社会人を経験してから大学院で学び直しましたが、学部からストレートに進学していたら分からなかったこと、実務経験があるからこそ得られた学びが多くあったと感じています。

企業で働いていると、企業内での自分の立ち位置は分かるけれど、いざ企業を出て社会の中では自分はどんな力があるのかと不安になることもありますよね。TEEPでは自分のキャリアを棚卸しして、多面的に評価してフィードバックしてもらえるプログラムが魅力的だと思います。その経験こそがまさに、自身のキャリアを職場ではもちろん、広く社会に役立てていくことにつながるのではないでしょうか。

特定非営利活動法人アスクネット

地域に学校と市民・企業・行政・各種団体がお互いに学びあうコミュニティを創出することを目指して、学校と社会をつなぐ教育のサポートを行うNPO法人。「キャリア教育コーディネーター」として、地域で活躍する市民や企業人が小学校・中学校・高校・大学などで授業を行う際のコーディネートを手掛けるほか、キャリア教育やインターンシップのプログラム設計なども行う。社会人向けの「キャリア教育コーディネーター育成研修」や、20代～40代のビジネスマン向けの「社会人スクール」も開催している。

特定非営利活動法人 アスクネット（ASK-NET）
〒456-0006　名古屋市熱田区沢下町8-5
愛知私学会館東館3階
TEL：052-881-4349　FAX：052-881-5567
https://asknet.org　info@asknet.org

11月に**「2022年度TEEPシンポジウム 及び 専門コースワークショップ」**を開催いたします。
詳細については、Webサイトにてご案内させていただきます。
https://teep-consortium.jp/

TEEP 進化型実務家教員養成プログラム | NEWS LETTER | VOL.31
発行者　TEEPコンソーシアム実施委員会　事務局　名古屋市立大学教務企画室内　〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
発行日　2022年9月1日　連絡先　E-mail：teep_office@sec.nagoya-cu.ac.jp

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」

TEEP 進化型実務家教員養成プログラム NEWS LETTER

VOL.31

愛知県名古屋市の特定非営利活動法人アスクネットは「キャリア教育コーディネーター」として、20年以上にわたって学校教育の現場と企業や地域をつなぎ、多様な知識や価値観を伝えることを通じて、子どもたちの意欲や主体性を大きく育ててきました。その活動は実務家教員の可能性を考える上でも大いに参照したいモデルでもあります。代表理事の山本和男さんに、実務家と教育がつながる意義とその方法、そして社会人が再び学び直すことの価値についてお聞きしました。
（聞き手：名古屋市立大学学長補佐　大学院経済学研究科教授　TEEP実施委員長　鵜飼宏成）

実務家教員ならではの経験が社会に還元される相乗効果に期待

― 学校と地域をつなぐ専門家「キャリア教育コーディネーター」に聞く ―

特定非営利活動法人
アスクネット
代表理事
山本 和男さん

社会と教育現場の両方を見る視点

―― 山本さんのこれまでのキャリアと非営利活動を職業として選択された背景をお聞かせいただけますか。

私が大学を卒業して最初に就職したのは、人材開発や人材育成に関わる企業です。人を支える仕事に魅力を感じ、また上場企業のマネジメントを学びたいと思い入社しました。仕事をするうちに、地元のために働きたいと思うようになりました。私の出身地である東京都足立区は、貧困や健康寿命の短さ、子どもたちの学力の伸びづらさなど、いわゆる社会課題が山積する地域といわれていました。そんな地元を何とかしたくて、将来は足立区議会議員になろうと思うようになりました。

イギリスのブレア首相が「Education, Education, Education!」という演説で教育政策の重要性を説いていましたが、私も政治に関わるならば教育を知らなければならないと感じていました。そこで教育関係の仕事をしようと、転職先を探していた時に出会ったのがアスクネットです。

営利企業から非営利団体、NPOに入った最初の半年間は違和感を持つことばかりでした。普通の企業なら、収益の上がらない赤字の事業からはすぐに撤退しますよね。けれど、NPOは支援を求めている人が目の前にいれば、手を差し伸べ続けるものです。

また、企業と比べると職員に任される業務はとても多いです。規模が小さかったり、法人としての基盤が企業ほどは整っていなかったりすることがあるた

めです。アスクネットでは小学校から大学まで、どこでも授業のコーディネートができてやっと一人前といわれます。

実は入った当時は教育が一通り分かったら、3年くらいで辞めようと思っていました。しかし、アスクネットで教育に関する政策提言やアドボカシー（権利擁護・代弁）の活動をしていると、自分は議員になるよりも、教育現場にいて仕組みを変えて行く方が向いていると気づいたのです。それでアスクネットの仕事を続けて、2019年に代表理事に就任しました。

―― アスクネットの仕事は、社会課題を発見・分析し、解決のために政策提言したり、いろいろな人を巻き込んで大きな流れを作っていくという面もあるのですね。一方では目の前の学生や子どもたちに向き合っていくという面もあります。二つの活動のバランスをどう考えていらっしゃいますか。

私が入職した当時は、学校を卒業しても進路が定められずに何となくニートやフリーターになってしまう若者たちが多いということで、その解決策として学校でキャリア教育をしっかりやっていこう、と提案していました。社会人の方を学校に招いて授業をしていただくことが定着した後は、子どもたちがより主体的に学ぶ姿勢を持つには、子どもたちが校外でさまざまな経験をする方が効果的ではないかと考え、高校生インターンシップ事業を始めました。こちらも愛知県内で導入する学校が増えています。こうした学校の中と外をつなぐ活動の広がりは、まさにアスクネットが積み重ねてきたアドボカシー活動の成果だと考えています。

こうして活動の認知度が高まり、各学校や大学からの依頼が増えてきた今では、目の前の生徒たちに対してどんな授業づくりをしていくべきか、という活動に割く時間や労力が増えています。また、今は生活困窮世帯などの子どもたちと直接関わる学習支援事業も行っていますので、やはり一人ひとりの子どもに対してどう支援するかということに力点が移っています。総論的に教育政策をどう変えて行くか、という活動は、以前に比べれば少し弱くなっているかもしれません。

それでも「子ども家庭庁」創設の賛同団体となったり、「子どもの権利条約」を法律や条令にいかす活動のネットワークに入ったり、といった活動は続けています。また、アスクネットだけでサポートできる学校の数は限られていますので、キャリア教育コーディネーターの資格を取得された方が、自分の住む地域の学校を支援できる仕組み作りや、学校の先生自身が独自にキャリア教育の授業を開発・運営できるようになるための支援も始めています。

コーディネーターとして教育の「場」を作る

―― アスクネットさんが育成している「キャリア教育コーディネーター」とはどんな役割を果たす人で、その仕事の魅力はどんなところにあるのでしょうか。

インターンシップを経験する高校生

キャリア教育を行いたい学校の先生と打ち合わせをして、講師の開拓から調整、当日の実施までをサポートする仕事です。社会人講師による職業講話のような授業もあれば、国際理解や環境問題を考えたり、ものづくりの体験を行うこともあります。

キャリア教育コーディネーターは教員とは全く違う役割を持っています。その目的は教育の「場」を作ることです。授業の場を作るために、先生方や企業の方、地域の方と連携するわけです。

ただ、学校の先生方が持っている知識や価値観と、企業の方が持っている世界観が全く違う、ということは往々にしてあります。そこを繋ぐのがコーディネーターです。私は、社会課題を解決する人には「通訳」のような能力が必要になると考えていますが、キャリア教育コーディネーターは教育分野の「通訳者」であることが、その魅力であると思います。

キャリア教育コーディネーター育成研修

また、先生方と打ち合わせをして、子どもたちに身につけてほしい能力や授業の目的、ゴールを共有できれば、そこに到達するための具体的なプログラムは、個々のコーディネーターの特性をいかしてユニークなプログラムを作ることができるというのも面白いところです。

ただ、当然のことながら教育は、子どもたちのこれからの人生に大きな影響を及ぼすものです。自分の興味関心や価値観を押し出すのではなく、子どもたちの学びや成長に対する責任を認識できる人でなければなりません。また、教育に対する熱心さは持ちつつも、授業の場を作っていくときには、子どもたち・先生・そして外部講師と一歩引いて全体を見て、準備から当日の運営まで進められる冷静さも必要です。

教員とコーディネーターでは役割が違う、と言いましたが、最近では反転授業やPBL（課題解決型学習）が重視されてきていますよね。こうした授業では先生自身も授業の「場づくり」という考え方を持つことも必要になってきているのではないかと考えています。

「自己理解」と「自己組織化」がテーマ

―― 主に学校教育の現場をフィールドとしてきたアスクネットさんですが、最近では社会人向けの講座を始められたそうですね。社会人スクールを開講したきっかけや、その内容を教えてください。

社会人スクールを始めたきっかけの一つは、私自身がアスクネットに入った後に大学院に入学して学んだ経験が、今の仕事にも大いに役立っていることです。私が大学院に入ったのは30代後半でした。本当はもう少し早い段階、若い時期に学び始められたらなお良かったとも感じています。ただ、いざ学びたいと思っても社会人大学院は選考を通るのも難しく、企業で働いている方にとってはハードルが高いのではないかと思いました。

また、今の日本で大学院などに進学して学び直そうとする方は、職場ですぐに使える知識やスキルを得ようという方がほとんどです。私はその前に、「社会と自分」や「社会と仕事」の関係に目を向けた学びが必要だと考えました。自分の望む未来の社会とはどんなものか、そこでどんな自分でありたいか、ということを考える機会が必要ではないかと。その後で専門性を高めるためにMBAを取るなり、他の大学院に行くなり、ボランティアやプロボノとして活躍する、という基盤になるようなスクールです。

もう一つは、私が新卒で就職した頃は「仕事は上司の背中を見て覚えろ」という雰囲気がありましたが、今は新入社員には丁寧に教えて、メンタルケアもきちんとして、という企業が多いですよね。それは良い傾向なのですが、一方では新人が自ら探求する機会が少なくなっているという面もあると考えています。

そのため、アスクネットの社会人スクールは「自己理解」と「自己組織化」という二つのテーマを軸にしています。